

片桐の国語授業について

2012年改訂版

配布日 月 日 曜

年 組 番 名前

①教室移動はすばやく。始業のチャイム以前に着席。

(1)始業のチャイムが鳴った際に、席にいなければ欠席、欠課、遅刻。

(2)遅れた場合は、自分で理由と共に申し出ること。申し出でない場合は、欠席となる。

②座席表通りに着席すること。

(3)空席者を欠席扱いとする。勝手に席を代わらない。

③授業で毎時間用意するものは、学校で一括購入した国語の教具（教科書・便覧《必要に応じて》・参考書・問題集・辞典など）・紙製のA4ファイル・紙製の表紙のB5大学ノート・筆記用具（黒ペン必要）。

(4)国語を学習する上で、言葉の意味を確認することは非常に重要なことです。解らない語がある場合はすぐに調べられるような用意をして下さい。

(5)授業前に机の上に用意しておくこと。後からロツカेに取りに行かないように。

(6)全ての教具には黒ペンで記名をしておくこと。

④配布プリントを閉じる紙製のA4ファイルを準備する」と。

(7)これから、たくさんプリントを配るので、それをなくさないように保管するファイルが必要です。以前に配ったプリントを参考にして学習することがあるので、すぐに参考できるように整理しておくこと。

(8)B4プリントの折り方は、半分に折ってさらには4分の1に折る。指定通りでない場合は再提出となります。（末ページに図解あり）

(9)配布プリントは、無くした場合、再配布しません。（各自コピーをする。）

(10)欠席、公欠などの場合は、次に出席した時に渡すので忘れずに自分で取りに来ること。また、教務室に取りに来ること。ただし、もらいに来るのが遅いとプリントが無くなつていて渡せなくなる場合があります。トです）が必要です。

(11)ルーズリーフ、バインダー不可。

四角と四辺と手筋

○学校教育の目的……
○国語教育の目標……「人格の完成」（＝立派な大人になる、

「日本語の機能を理解し、

(12)記入面にもようがあるものや、背景色が濃いものは不可。

(13)ノートの記述の仕方はフォーマットを別に指示します。

(14)話をよく聞いて、どのように作業をすればいいのか考えること。

(15)文字の形、濃さ、表現の内容によって伝わりにくい場合は再提出となる。

(16)始業・終業の礼は厳肅なものである。正しく隣に仲間がいながらにして学習行為がおこなわれるのか、その効果を考えること。

(17)各自授業中に話していい時と話してはいけない時を判断すること（空気を読むこと）。

(18)私語・居眠りは学習不参加であり、欠課と同等と見なす。特に教師が全体に説明している時の私語は他人の知識と時間を奪う最も悪質な授業妨害行為である。

(19)飲食・内職は、完全に学習不参加である。没収の上、返却しない。

(20)その時間に教室に入つても授業に参加しなければ、欠席と同じ事である。

(21)入室の際には、以下のように名乗る。

⑧学習目標を達成するためにはモラルに反しない限り何をしてもかまいません。

⑨クラス全員が同意し、目的に向かつた学習意義のあるものだつたら、何でもおこないます。

⑩片桐は基本的に生徒指導室にいます。

「〇年〇組の×▲□★ですが、片桐先生いらつしやいますか？」

(11)皆さんの表現作品をweb上で公開することができます。そのときには許諾を得た後に掲載します。

(12)週一度の小テストに加えて、必要に応じて追試、スピーチ、言語に関する小テストをおこないます。

日本語を適切に使えるようにする。日本言語文化の伝承をする。」

○学校生活の目標……

○個人の進路の目標……

○片桐国語授業の目標…… **みんなの学力向上**

○それらを実現するための手段…… **モラルに反しない限り自由**です。

★ 「目的」と「目標」と「手段」は全く別のものです。「目標」の目的化、「手段」の目的化は絶対に避けなければなりません。

★ 「みんなの学力向上」とは？
クラス全員がその課題を完成することです。そのためによる最も効率的な手段とは……？

・情報の共有化でみんなが幸せになれる。

「みんなの学力向上」とは？

- 「学ぶ」ということは、自分の身の回りから吸収することです。（「学ぶ」の語源は「まねる」である）
- 「勉強する」ということは、高校生レベルでは、「自分のわからないところを見つけて、それをわかるようにする。」ということです。
- 立派な大人になるために

中村文昭さんの4箇条

- ①返事は0.2秒
- ②できない言い訳をしない
- ③たのまれごとはためされごと
- ④相手の期待を上回る

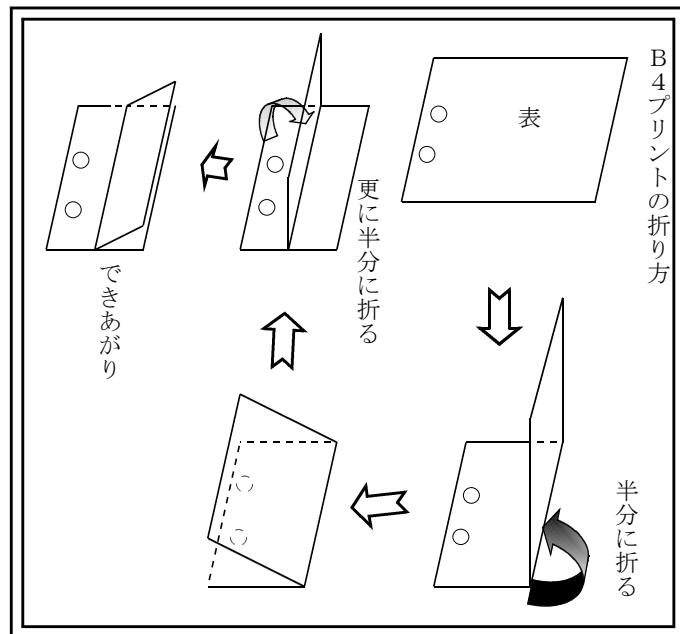
「出会いを生かせば、ワット道は開ける！」 PHP研究所 (2005/10/25)

内田樹さんの言葉より

- ①いつ誰に何を聞けばいいかを会得すれば社会でやつていける

先輩の国語授業で学んだことと作文

- ①国語は、ここまで生きる上で役に立つとは思わなかつた。最初はせいぜい話して、漢字を覚えればそれで事足りるものだと思っていた。しかし今年度の国語は違つた。文章の中から本当に作者が伝えたいことを見つけ出せるようになったし、逆に受け取る相手に伝わりやすい文章を書けるよ



② 提出日を守ることと提出することの責任の重さだ。中学の頃はノートを出さないと先生が「今日中に出しなさい」と声をかけてくれ、それまでには出さなくていいと考えていた。でも、高校生になるとクラスみんなの点まで引かれるということもあり、提出するということは責任もあるということを学んだ。また、クラス全員が提出しないといけない課題は、何日までに出さなければいけない、合格しなければいけない、プリッシヤンなどういうもあり、すこく真剣に取り組み、提出することができた。

うになった。中でも一番役立つのは他人と協力することだ。小学校、中学校、と何度も何度も積重ねて聞かされてきたことだが、高校に入つて語の授業を受けてから初めて思い知られた。自分が課題をクリアしても周りの人のことには気を回さないと課題を完全に終わらせたとはわからない。またクラスの全員がそのような気持ちで気を回さないと、空気にならず、結局は誰か一人が残ってしまう。社会に出てからは他人と力することが最も重要なことだ。このことに高校生の階で気付けて良かった。人はいろいろな性格があるから、協力が苦手な人もいる。そのような人は自分から積極的に空気を作つてあげることも大切だ。また必ずしも他人と協力する課題ばかりはない。時には一人で静かに課題に取り組むこともある。その人には周りの人も静かにして課題に集中できる空気を作ることが重要だ。これもまた一種の協力で、全員が課題を終わらせることが生きる上での役に立つ。